

第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

株式会社東日本銀行

(E03642)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
(1) 【株式の総数等】	8
① 【株式の総数】	8
② 【発行済株式】	8
(2) 【新株予約権等の状況】	8
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	8
(4) 【ライツプランの内容】	8
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	8
(6) 【大株主の状況】	8
(7) 【議決権の状況】	9
① 【発行済株式】	9
② 【自己株式等】	9
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
(1) 【四半期連結貸借対照表】	11
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	12
【四半期連結損益計算書】	12
【第1四半期連結累計期間】	12
【四半期連結包括利益計算書】	13
【第1四半期連結累計期間】	13
【注記事項】	14
【セグメント情報】	15
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月8日

【四半期会計期間】 第149期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 株式会社東日本銀行

【英訳名】 The Higashi-Nippon Bank, Limited

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 石井道遠

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋3丁目11番2号

【電話番号】 03(3273)6221(大代表)

【事務連絡者氏名】 参与財務部長 小室満

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋3丁目11番2号

【電話番号】 03(3273)6221(大代表)

【事務連絡者氏名】 参与財務部長 小室満

【縦覧に供する場所】 株式会社東日本銀行 水戸支店
(茨城県水戸市泉町2丁目3番2号)

株式会社東日本銀行 松戸支店
(千葉県松戸市稔台7丁目2番地の2)

株式会社東日本銀行 横浜支店
(神奈川県横浜市中区曙町1丁目5番地)

株式会社東日本銀行 与野支店
(埼玉県さいたま市浦和区上木崎2丁目2番1号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成25年度第1四半期 連結累計期間	平成26年度第1四半期 連結累計期間	平成25年度
		(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
経常収益	百万円	11,262	9,427	39,994
経常利益	百万円	3,743	1,240	9,978
四半期純利益	百万円	2,090	1,177	—
当期純利益	百万円	—	—	5,545
四半期包括利益	百万円	△431	2,985	—
包括利益	百万円	—	—	5,364
純資産額	百万円	97,082	103,892	101,546
総資産額	百万円	1,918,051	2,007,151	1,960,768
1株当たり四半期純利益金額	円	11.84	6.66	—
1株当たり当期純利益金額	円	—	—	31.40
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円	11.80	6.63	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	—	—	31.28
自己資本比率	%	5.0	5.2	5.2

(注) 1. 当行の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。連結子会社も主に税抜方式によっております。

2. 1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載してあります。

3. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計－(四半期)期末新株予約権－(四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出してあります。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。

なお、平成26年4月1日付で、連結子会社である東日本ビジネスサービス株式会社が、東日本オフィスサービス株式会社を吸収合併しており、当行の連結子会社は3社となりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生及び前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当行グループ(当行及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間の首都圏経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、基調的には緩やかな回復を続けております。

公共投資は高水準で推移し、輸出は緩やかな持ち直し傾向にあります。個人消費・住宅投資は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、基調的には、雇用・所得が改善するもとの、底堅く推移しております。設備投資は、企業収益が改善する中で、増加基調にあります。こうした中で、生産は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けつつも、基調的には緩やかな増加を続けております。雇用・所得は、労働需給が着実な改善を続けているもとの、雇用者所得も改善しております。

このような環境のもとで、当行グループは、業績の伸長と経営の効率化に努め、その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。なお、当行グループは、銀行業の単一セグメントとなっております。

業容面につきましては、預金等(譲渡性預金含む)は、当第1四半期連結累計期間中339億円増加し、当第1四半期連結会計期間末残高は1兆8,573億円となりました。

一方、貸出金は、当第1四半期連結累計期間中138億円増加し、当第1四半期連結会計期間末残高は1兆4,873億円となりました。

有価証券は、当第1四半期連結累計期間中247億円増加し、当第1四半期連結会計期間末残高は3,994億円となりました。

総資産は、当第1四半期連結累計期間中463億円増加し、当第1四半期連結会計期間末残高は2兆71億円となりました。

次に、損益状況でございますが、経常収益は前年同四半期連結累計期間比18億34百万円減少し、94億27百万円となりました。うち資金運用収益が75億36百万円、役務取引等収益が7億40百万円、その他業務収益が1億57百万円、その他経常収益が9億93百万円となりました。

一方、経常費用は前年同四半期連結累計期間比6億68百万円増加し、81億86百万円となりました。うち資金調達費用が4億40百万円、役務取引等費用が4億45百万円、その他業務費用が8百万円、営業経費が59億37百万円、その他経常費用が13億54百万円となりました。

以上により、経常利益は前年同四半期連結累計期間比25億2百万円減少して12億40百万円、四半期純利益は前年同四半期連結累計期間比9億13百万円減少して11億77百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第1四半期連結累計期間の資金運用収支は、前年同四半期連結累計期間比45百万円減少して、70億95百万円となりました。国内業務部門は74百万円減少して70億0百万円となりました。国際業務部門については29百万円増加して95百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間の役員取引等収支は、前年同四半期連結累計期間比1億17百万円減少して2億95百万円となりました。国内業務部門については1億57百万円減少して3億51百万円となり、国際業務部門については0百万円減少して10百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間のその他業務収支は、前年同四半期連結累計期間比1億90百万円減少して1億49百万円となりました。国内業務部門については2億64百万円減少して1億5百万円となり、国際業務部門については21百万円増加して51百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	7,074	65	△0	7,140
	当第1四半期連結累計期間	7,000	95	△0	7,095
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	7,558	88	3	14 7,629
	当第1四半期連結累計期間	7,439	112	2	13 7,536
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	483	22	3	14 488
	当第1四半期連結累計期間	439	16	2	13 440
役員取引等収支	前第1四半期連結累計期間	508	10	106	412
	当第1四半期連結累計期間	351	10	66	295
うち役員取引等収益	前第1四半期連結累計期間	920	13	113	820
	当第1四半期連結累計期間	801	14	74	740
うち役員取引等費用	前第1四半期連結累計期間	412	3	7	408
	当第1四半期連結累計期間	449	3	8	445
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	370	30	61	340
	当第1四半期連結累計期間	105	51	8	149
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	579	30	61	548
	当第1四半期連結累計期間	114	51	8	157
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	208	—	—	208
	当第1四半期連結累計期間	8	—	—	8

- (注) 1. 国内業務部門は当行の円建取引及び連結子会社、国際業務部門は当行の外貨建取引であります。
 ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。
2. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
3. 相殺消去額は、連結会社相互間の取引高の消去額であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第1四半期連結累計期間の役務取引等収益は、前年同四半期連結累計期間比80百万円減少して7億40百万円となりました。国内業務部門については、預金・貸出業務の受入手数料を主要因に1億19百万円減少して8億1百万円となりました。国際業務部門については、0百万円増加して14百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間の役務取引等費用は、前年同四半期連結累計期間比36百万円増加して4億45百万円となりました。国内業務部門はその他の支払手数料を主要因に37百万円増加して4億49百万円となり、国際業務部門については0百万円増加して3百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	920	13	113	820
	当第1四半期連結累計期間	801	14	74	740
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	309	—	—	309
	当第1四半期連結累計期間	266	—	—	266
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	258	13	1	270
	当第1四半期連結累計期間	255	13	1	267
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	124	—	—	124
	当第1四半期連結累計期間	90	—	—	90
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	186	—	112	74
	当第1四半期連結累計期間	146	—	73	72
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	40	—	—	40
	当第1四半期連結累計期間	41	—	—	41
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	1	0	—	2
	当第1四半期連結累計期間	1	0	—	1
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	412	3	7	408
	当第1四半期連結累計期間	449	3	8	445
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	75	2	—	78
	当第1四半期連結累計期間	77	3	—	80

- (注) 1. 国内業務部門は当行の円建取引及び連結子会社、国際業務部門は当行の外貨建取引であります。
2. 相殺消去額は、連結会社相互間の取引高の消去額であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	1,717,912	4,293	1,597	1,720,607
	当第1四半期連結会計期間	1,826,997	4,019	1,602	1,829,414
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	708,208	—	1,597	706,610
	当第1四半期連結会計期間	744,151	—	1,602	742,549
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	991,476	—	—	991,476
	当第1四半期連結会計期間	1,065,720	—	—	1,065,720
うちその他	前第1四半期連結会計期間	18,227	4,293	—	22,520
	当第1四半期連結会計期間	17,124	4,019	—	21,144
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	66,901	—	—	66,901
	当第1四半期連結会計期間	27,900	—	—	27,900
総合計	前第1四半期連結会計期間	1,784,813	4,293	1,597	1,787,509
	当第1四半期連結会計期間	1,854,897	4,019	1,602	1,857,314

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
 2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
 3. 国内業務部門は当行の円建取引及び連結子会社、国際業務部門は当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。
 4. 相殺消去額は、連結会社相互間の債権・債務の消去額であります。

国内・特別国際金融取引勘定別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,440,713	100.00	1,487,303	100.00
製造業	97,572	6.77	97,789	6.57
農業, 林業	948	0.07	951	0.06
漁業	—	—	40	0.00
鉱業, 採石業, 砂利採取業	388	0.03	382	0.03
建設業	75,851	5.26	83,787	5.63
電気・ガス・熱供給・水道業	561	0.04	1,770	0.12
情報通信業	28,674	1.99	27,678	1.86
運輸業, 郵便業	34,498	2.39	39,802	2.68
卸売業, 小売業	150,093	10.42	149,746	10.07
金融業, 保険業	74,572	5.18	77,802	5.23
不動産業	83,906	5.82	99,294	6.68
不動産賃貸管理業	360,020	24.99	388,994	26.15
物品賃貸業	29,566	2.05	31,194	2.10
学術研究, 専門・技術サービス業	22,781	1.58	22,169	1.49
宿泊業	14,538	1.01	13,543	0.91
飲食業	19,891	1.38	20,418	1.37
生活関連サービス業, 娯楽業	47,353	3.29	48,125	3.24
教育, 学習支援業	6,733	0.47	7,308	0.49
医療・福祉	32,492	2.25	34,504	2.32
その他のサービス業	29,169	2.02	29,075	1.96
地方公共団体	48,058	3.34	42,637	2.87
その他	283,039	19.65	270,284	18.17
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	1,440,713	—	1,487,303	—

(注)「国内」とは、当行(除く特別国際金融取引勘定分)及び連結子会社であります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	388,000,000
計	388,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	184,673,500	184,673,500	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)1, 2
計	184,673,500	184,673,500	—	—

(注) 1. 単元株式数は定款で、1,000株と定めております。

2. 完全議決権株式であり、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式です。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年6月30日	—	184,673	—	38,300	—	24,600

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,865,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 175,870,000	175,870	—
単元未満株式	普通株式 938,500	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	184,673,500	—	—
総株主の議決権	—	175,870	—

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。
また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社東日本銀行	東京都中央区日本橋3丁目 11番2号	7,865,000	—	7,865,000	4.25
計	—	7,865,000	—	7,865,000	4.25

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の変動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
現金預け金	62,487	80,850
コールローン及び買入手形	20,174	10,172
商品有価証券	-	1
有価証券	374,719	399,454
貸出金	※1 1,473,488	※1 1,487,303
外国為替	1,224	2,088
その他資産	7,426	7,780
有形固定資産	24,148	24,066
無形固定資産	1,309	1,247
繰延税金資産	3,244	2,968
支払承諾見返	2,011	1,686
貸倒引当金	△9,465	△10,468
資産の部合計	1,960,768	2,007,151
負債の部		
預金	1,779,505	1,829,414
譲渡性預金	43,865	27,900
借入金	-	11,600
外国為替	15	2
社債	10,000	10,000
その他負債	12,142	11,718
賞与引当金	888	275
退職給付に係る負債	7,368	7,245
役員退職慰労引当金	4	1
利息返還損失引当金	1	3
睡眠預金払戻損失引当金	175	163
偶発損失引当金	237	241
再評価に係る繰延税金負債	3,006	3,006
支払承諾	2,011	1,686
負債の部合計	1,859,222	1,903,259
純資産の部		
資本金	38,300	38,300
資本剰余金	24,600	24,601
利益剰余金	30,551	31,068
自己株式	△1,453	△1,417
株主資本合計	91,997	92,551
その他有価証券評価差額金	5,200	6,928
繰延ヘッジ損益	△462	△446
土地再評価差額金	5,166	5,166
退職給付に係る調整累計額	△688	△625
その他の包括利益累計額合計	9,216	11,023
新株予約権	144	128
少数株主持分	187	188
純資産の部合計	101,546	103,892
負債及び純資産の部合計	1,960,768	2,007,151

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
経常収益	11,262	9,427
資金運用収益	7,629	7,536
(うち貸出金利息)	7,044	6,971
(うち有価証券利息配当金)	574	552
役務取引等収益	820	740
その他業務収益	548	157
その他経常収益	※1 2,263	※1 993
経常費用	7,518	8,186
資金調達費用	488	440
(うち預金利息)	360	318
役務取引等費用	408	445
その他業務費用	208	8
営業経費	5,815	5,937
その他経常費用	※2 597	※2 1,354
経常利益	3,743	1,240
特別損失	9	0
固定資産処分損	9	0
税金等調整前四半期純利益	3,734	1,240
法人税、住民税及び事業税	714	806
法人税等調整額	914	△745
法人税等合計	1,628	61
少数株主損益調整前四半期純利益	2,105	1,178
少数株主利益	15	1
四半期純利益	2,090	1,177

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,105	1,178
その他の包括利益	△2,536	1,806
その他有価証券評価差額金	△2,642	1,728
繰延ヘッジ損益	106	15
退職給付に係る調整額	-	62
四半期包括利益	△431	2,985
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△446	2,983
少数株主に係る四半期包括利益	15	1

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

連結の範囲の重要な変更

平成26年4月1日付で、東日本オフィスサービス株式会社は、東日本ビジネスサービス株式会社を存続会社として合併し、当第1四半期連結会計期間より連結子会社は4社から3社に減少しております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が72百万円減少し、利益剰余金が46百万円増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
破綻先債権額	2,183百万円	2,490百万円
延滞債権額	22,666百万円	23,652百万円
3ヵ月以上延滞債権額	863百万円	833百万円
貸出条件緩和債権額	10,637百万円	6,206百万円
合計額	36,351百万円	33,183百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
株式等売却益	2,233百万円	946百万円

※2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
貸倒引当金繰入額	486百万円	1,278百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	255百万円	354百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	706	4	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	706	4	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なものである有価証券の時価等に関する事項は、次のとおりであります。

その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	7,684	9,855	2,170
債券	277,819	280,194	2,375
国債	53,300	54,179	878
地方債	67,142	67,544	401
社債	157,376	158,471	1,094
その他	79,916	83,440	3,523
外国債券	39,502	39,781	279
合計	365,420	373,489	8,068

当第1四半期連結会計期間(平成26年6月30日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	7,684	10,301	2,617
債券	282,257	284,816	2,559
国債	52,608	53,478	870
地方債	68,932	69,445	513
社債	160,716	161,892	1,175
その他	97,534	103,109	5,574
外国債券	41,001	41,373	371
合計	387,476	398,227	10,750

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第1四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度及び当第1四半期連結累計期間において、減損処理したものはありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準の概要は以下の通りであります。

(1) 株式及び受益証券

四半期連結会計期間末前(連結会計年度末前)1ヵ月の市場価格の平均に基づいて算定された額が、取得原価に比べて30%以上下落した場合。

(2) 債券

四半期連結会計期間末日(連結会計年度末日)における市場価格等に基づく時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落した場合で発行会社の財務内容等に懸念が認められる場合。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	11.84	6.66
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	2,090	1,177
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る四半期純利益	百万円	2,090	1,177
普通株式の期中平均株式数	千株	176,617	176,653
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	11.80	6.63
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	494	853
うち新株予約権	千株	494	853
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式で、前連結会計年度末から重 要な変動があったものの概要		—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月6日

株式会社 東日本銀行

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岸 野 勝 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 濱 原 啓 之 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社東日本銀行の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社東日本銀行及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。